

平成二十七年 度 学 力 検 査 問 題

国 語

(九時二十五分～十時十五分)
(五十分間)

受検番号	第	番
------	---	---

注 意

1 解答用紙について

- (1) 解答用紙は一枚で、問題用紙にはさんであります。
- (2) 係の先生の指示に従って、所定の欄二か所に受検番号を書きなさい。
- (3) 答えはすべて解答用紙のきめられたところに、はっきりと書きなさい。
- (4) 解答用紙は切りはなしてはいけません。
- (5) 解答用紙の*印は集計のためのもので、解答には関係ありません。

2 問題用紙について

- (1) 表紙の所定の欄に受検番号を書きなさい。
 - (2) 問題は全部で五問あり、表紙を除いて十二ページです。
- 印刷のはっきりしないところは、手をあげて係の先生に聞きなさい。

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(25点)

栗原歩は、全国大会の常連である岩北高校将棋部に初心者として入部した。歩は、将棋好きの祖父の指導や部員たちとの交流を通して次第に腕を磨き、三月の春合宿ではB級に入ることができた。県大会の前に、顧問の本郷先生の「歩……A級いいかもな。」という発言を聞き、歩は県大会でB級に出場するか、さらに上のA級に出場するか迷っていた。

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

(小山田桐子著『将棋ボトイズ』による。一部省略がある。)

問4 ④ 自分は金だと証明したくないか？ とありますが、この言葉を歩はどのように感じているかを次のようにまとめました。空欄にあてはまる内容を、二十字以上、三十字以内で書きなさい。

(6点)

祖父は、歩には将棋の実力が十分にあると励ましているのだが、歩は、	
30	20
と感じている。	

問5 ⑤ おじいちゃんが転んだのは絶対自分のせいだと思った。 とありますが、このときの歩の心情を説明したものととして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(5点)

- ア 昨日のことを謝ろうと決めていたが、祖父の視線を感じて言い出せず、祖父と和解できなかったことが、転倒の原因になったと考えている。
- イ 昨日のことを気にしながらも、祖父と向き合うことを避け、祖父を落胆させたままにしたことが、転倒の原因になったと考えている。
- ウ 明日話そうと約束をしていたにもかかわらず、それを忘れて対局に熱中してしまい、祖父を失望させたことが、転倒の原因になったと考えている。
- エ パートで不在がちな母からの着信に気づかず、祖父を家に一人きりにしてしまったことが、転倒の原因になったと考えている。

2 次の各問いに答えなさい。(22点)

問1 次の——部の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に改めなさい。(各2点)

- (1) 稚拙な字を書く。
- (2) 峡谷を風が吹きぬける。
- (3) 運命に身を委ねる。
- (4) 電車がケイテキを鳴らす。
- (5) 夕日が空を赤くソめる。

問2 次の——線部の述語に対する主語を、一文節で書き抜きなさい。(3点)

この町には、私が友人と過ごした頃の思い出がたくさんあります。

問3 次の、夏目漱石著「坊っちゃん」の一部です。この文章の中に、用言(活用のある自立語)はいくつありますか。あとのア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

そんなものは欲しくないと、いつでも清に答えた。すると、あなたは欲が少なくなつて、心がきれいだと言つて、またほめた。

ア 四つ イ 五つ ウ 六つ エ 七つ

問4 次の会話の空欄にあてはまる最も適切な敬語の表現を、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

先生「ここは美術部の部室ですね。皆さんの作品を見せてもらえますか。」
生徒「ありがとうございます。どうぞ、ゆっくりと。」

ア お見せになつて イ ご覧になつて ウ 拝見なさつて エ お目にかけて

問5 俳句と俳句に表現されている季節の組み合わせとして適切でないものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

掲載
承諾
申請
中

3

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(25点)

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

(岡田晴生著『音楽の聴き方』による。一部省略がある。)

(注) ※ファクター……要素。

※ポリーニ……イタリアのピアノ奏者。ショパンの曲をリズムを変えて演奏した。

※涵養……徐々に養い育てること。

※リスペクト……敬意。

問1 私たちは美術館で絵を前にして、反射的に作者の名前を見ようとする。とありますが、「私たち」がこうした行動をとる理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

- ア 作者の名前によって、美術館の歴史を探そうと思うから。
- イ 作者の知名度が、その絵の文化的な価値を決めると思うから。
- ウ 作者を知ること、その絵の歴史的な背景を知ろうと思うから。
- エ 作者を確認すること、その絵の難しさを判断しようと思うから。

問2 音楽は必ず文脈の中で鳴り響き、私たちは文脈の中でそれを聴く。とありますが、これは、筆者が音楽をどのようなものと考えているからですか。次の書き出しに続けて、四十五字以上、五十五字以内で説明しなさい。(6点)

筆者は、音楽を

45	55
----	----

ものと考えているから。

問3 今の時代にあつて何より大切なのは、自分が一体どの歴史／文化の文脈に接続しながら聴いているのかをはっきり自覚すること、そして絶えずそれとは別の文脈で聴く可能性を意識してみることだと、私は考えている。とありますが、筆者がこのように考えたのは、どのような現代の音楽の事情があるからですか。それを説明した一文として最も適切なものを本文中から探し、そのはじめの五字を書き抜きなさい。(4点)

問4 歴史と文化の遠近法の中で音楽を聴くとは、未知なる他者を知ろうとする営みである。とありますが、次はこの内容を説明したものです。空欄にあてはまる内容を、四十字以上、五十字以内で書きなさい。(6点)

異なる文化や歴史に参入し、音楽を聴くことは、

40	60
----	----

につながる営みである。

問5 本文の構成や表現の仕方について述べたものとして適切でないものを、次のA～Eの中から一つ選び、その記号を答えなさい。(5点)

- A 音楽と美術、東洋と西洋というように、複数のものを対比させながら論を進めることで、それぞれの特徴を読み手にはっきりと印象づけている。
- イ 「ダナ・アールルドが言うように」「小沼純一は、次のように説明している」のように、他者の考えや説明を加え、筆者の考えを補っている。
- ウ 「ガラス瓶の中の手紙を開封すること」「空気のようなもの」などの比喩を用いながら、文章の内容を具体的に想像しやすくしている。
- エ 「もちろん」「確かに」などの語句を用いながら反対の考え方や異なる考え方を示した後、自らの論を展開することで、筆者の主張を説得力のあるものにしていく。

4

次の文章は、東北地方の衣川で起きた戦いの話です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。
()の左側は口語訳です。(12点)

伊予の守源頼義朝臣、貞任・宗任等を攻むる間、陸奥に十二年の春秋をおくりけり。

鎮守府をたちて秋田の城にうつりけるに、雪はだれに降りて、軍のそのこともの鎧

はらはらと

武士たち

みな白妙になりけり。衣川の館、岸高く川ありければ、櫓をいただきて甲にかさね、

高くかかげて

筏をくみて責め戦ふに、貞任等たへずして、つひに城の後よりのがれおちけるを、

一男八幡太郎義家、衣川に追ひたて攻めふせて、「きたなくも、うしろをば見するものかな。

ひきょうにも

敵に背を見せて逃げる気が

しばし引きかへせ。物いはん。」といはれたりければ、貞任、見帰りたりけるに、

後ろを振り返ったのを

衣のたてはほころびにけり。

といへりけり。貞任くつばみをやすらへ、鍛をふりむけて、

馬のくつわをゆるめ

首を振り向けて

年をへし糸のみだれのくるしさを

と付けたりけり。その時義家、はげたる箭をさしはづして帰りにけり。

手につかえていた矢を納めて

さばかりのたたかひの中に、やさしかりける事かな。

これほど激しい

(注)

※伊予の守源頼義……現在の愛媛県にあたる伊予の国の長官であった源頼義のこと。

※貞任・宗任……陸奥(現在の青森、岩手、宮城、福島の四県にあたる)の豪族である

安倍貞任と安倍宗任の兄弟。

※鎮守府……陸奥に置かれた役所。

※八幡太郎義家……源義家。頼義の長男。

問1 たへずしてとありますが、この部分を「現代仮名遣い」に直し、ひらがなで書きなさい。

(3点)

問2 白妙しらたかになりけり。とありますが、これはどのような様子を表していますか。それを説明

した次の空欄にあてはまる内容を、十字以内で書きなさい。(3点)

武士たちの鎧よろいが

様子。

問3 しばし引きかへせ。物いはん。とありますが、次は、このあとの義家よしかと貞任さだとうが交わし合っ

た句について説明したものです。空欄I、IIにあてはまる言葉を本文中から探し、それぞれ

三字以上、五字以内で書き抜きなさい。(3点)

家	衣の縦糸がほころびてしまうように、とうとう	I	も攻め落とされてし
義	まったな、と呼びかけた。		
任	歳月を経た古糸がばらばらに乱れるように、	II	も続いた戦いで味方の軍
貞	も乱れて持ちこたえられなかった、と返事をした。		

問4 やさしかりける事かな。は「風雅な振る舞いであったことだ」という意味ですが、これは、

貞任と義家のどのような振る舞いに対して述べたものですか。最も適切なものを、次のA～E

の中から一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

A 激しい戦いの中にあっても、句を交わし合うことで互いの気持ち伝え合った、貞任と義

家の振る舞い。

イ 敗走する味方を逃がすために一人立ち止まった貞任と、それを見て追撃を止めて引き返し

た義家の振る舞い。

ウ 敗北を認め最後の戦を挑もうとする貞任と、勇敢な好敵手の命を惜しんで武装を解き引

き返した義家の振る舞い。

エ 激戦のさなか、敵、味方の立場の違いをこえて互いの武勇をたたえ、再戦を誓う句を交わ

し合った、貞任と義家の振る舞い。

5

国語の授業で、「百年後の日本に残したいもの」について話し合いを行い、次の①～③の三つの意見が出ました。この意見をもとに、「百年後の日本に残したいもの」について、一人一人が自分の考えを文章にまとめることになりました。

次の①～③の中から、あなたが「百年後の日本に残したいもの」を一つ選びなさい。また、それを選んだ理由を含めて、あとの(注意)に従って、あなたの考えを書きなさい。(16点)

- | | |
|---|------------|
| ① | 美しい自然の風景 |
| ② | 歴史ある町並みや建築 |
| ③ | 伝統的な祭りや芸能 |

(注意)

- (1) 最初の段落で、あなたが選んだ意見を書くこと。
- (2) 段落や構成に注意して、自分の体験(見たこと聞いたことなども含む)をふまえて書くこと。
- (3) 文章は、十三行以上、十五行以内で書くこと。
- (4) 原稿用紙の正しい使い方に従って、文字、仮名遣いも正確に書くこと。
- (5) 題名・氏名は書かないで、一行目から本文を書くこと。

(以上で問題は終わりです。)

